大阪インターナショナルチャーチ　　アリステア・マッケナ師　　2015/4/26

ヨハネ7：1-53「イエス、仮庵の祭りに行かれる」

7:1 その後、イエスはガリラヤを巡っておられた。それは、ユダヤ人たちがイエスを殺そうとしていたので、ユダヤを巡りたいとは思われなかったからである。 7:2 さて、仮庵の祭りというユダヤ人の祝いが近づいていた。 7:3 そこで、イエスの兄弟たちはイエスに向かって言った。「あなたの弟子たちもあなたがしているわざを見ることができるように、ここを去ってユダヤに行きなさい。 7:4 自分から公の場に出たいと思いながら、隠れた所で事を行う者はありません。あなたがこれらの事を行うのなら、自分を世に現しなさい。」 7:5 兄弟たちもイエスを信じていなかったのである。 7:6 そこでイエスは彼らに言われた。「わたしの時はまだ来ていません。しかし、あなたがたの時はいつでも来ているのです。 7:7 世はあなたがたを憎むことはできません。しかしわたしを憎んでいます。わたしが、世について、その行いが悪いことをあかしするからです。 7:8 あなたがたは祭りに上って行きなさい。わたしはこの祭りには行きません。わたしの時がまだ満ちていないからです。」 7:9 こう言って、イエスはガリラヤにとどまられた。 7:10 しかし、兄弟たちが祭りに上ったとき、イエスご自身も、公にではなく、いわば内密に上って行かれた。 7:11 ユダヤ人たちは、祭りのとき、「あの方はどこにおられるのか」と言って、イエスを捜していた。 7:12 そして群衆の間には、イエスについて、いろいろとひそひそ話がされていた。「良い人だ」と言う者もあり、「違う。群衆を惑わしているのだ」と言う者もいた。 7:13 しかし、ユダヤ人たちを恐れたため、イエスについて公然と語る者はひとりもいなかった。 7:14 しかし、祭りもすでに中ごろになったとき、イエスは宮に上って教え始められた。 7:15 ユダヤ人たちは驚いて言った。「この人は正規に学んだことがないのに、どうして学問があるのか。」 7:16 そこでイエスは彼らに答えて言われた。「わたしの教えは、わたしのものではなく、わたしを遣わした方のものです。 7:17 だれでも神のみこころを行おうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります。 7:18 自分から語る者は、自分の栄光を求めます。しかし自分を遣わした方の栄光を求める者は真実であり、その人には不正がありません。 7:19 モーセがあなたがたに律法を与えたではありませんか。それなのに、あなたがたはだれも、律法を守っていません。あなたがたは、なぜわたしを殺そうとするのですか。」 7:20 群衆は答えた。「あなたは悪霊につかれています。だれがあなたを殺そうとしているのですか。」 7:21 イエスは彼らに答えて言われた。「わたしは一つのわざをしました。それであなたがたはみな驚いています。 7:22 モーセはこのためにあなたがたに割礼を与えました。――ただし、それはモーセから始まったのではなく、父祖たちからです――それで、あなたがたは安息日にも人に割礼を施しています。 7:23 もし、人がモーセの律法が破られないようにと、安息日にも割礼を受けるのなら、わたしが安息日に人の全身をすこやかにしたからといって、何でわたしに腹を立てるのですか。 7:24 うわべによって人をさばかないで、正しいさばきをしなさい。」 7:25 そこで、エルサレムのある人たちが言った。「この人は、彼らが殺そうとしている人ではないか。 7:26 見なさい。この人は公然と語っているのに、彼らはこの人に何も言わない。議員たちは、この人がキリストであることを、ほんとうに知ったのだろうか。 7:27 けれども、私たちはこの人がどこから来たのか知っている。しかし、キリストが来られるとき、それが、どこからか知っている者はだれもいないのだ。」 7:28 イエスは、宮で教えておられるとき、大声をあげて言われた。「あなたがたはわたしを知っており、また、わたしがどこから来たかも知っています。しかし、わたしは自分で来たのではありません。わたしを遣わした方は真実です。あなたがたは、その方を知らないのです。 7:29 わたしはその方を知っています。なぜなら、わたしはその方から出たのであり、その方がわたしを遣わしたからです。」 7:30 そこで人々はイエスを捕らえようとしたが、しかし、だれもイエスに手をかけた者はなかった。イエスの時が、まだ来ていなかったからである。 7:31 群衆のうちの多くの者がイエスを信じて言った。「キリストが来られても、この方がしているよりも多くのしるしを行われるだろうか。」 7:32 パリサイ人は、群衆がイエスについてこのようなことをひそひそと話しているのを耳にした。それで祭司長、パリサイ人たちは、イエスを捕らえようとして、役人たちを遣わした。 7:33 そこでイエスは言われた。「まだしばらくの間、わたしはあなたがたといっしょにいて、それから、わたしを遣わした方のもとに行きます。 7:34 あなたがたはわたしを捜すが、見つからないでしょう。また、わたしがいる所に、あなたがたは来ることができません。」 7:35 そこで、ユダヤ人たちは互いに言った。「私たちには、見つからないという。それならあの人はどこへ行こうとしているのか。まさかギリシヤ人の中に離散している人々のところへ行って、ギリシヤ人を教えるつもりではあるまい。 7:36 『あなたがたはわたしを捜すが、見つからない』、また『わたしのいる所

にあなたがたは来ることができない』とあの人が言ったこのことばは、どういう意味だろうか。」
7:37 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。「だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。 7:38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおりに、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」 7:39 これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである。 7:40 このことばを聞いて、群衆のうちのある者は、「あの方は、確かにあの預言者なのだ」と言い、 7:41 またある者は、「この方はキリストだ」と言った。またある者は言った。「まさか、キリストはガリラヤからは出ないだろう。 7:42 キリストはダビデの子孫から、またダビデがいたベツレヘムの村から出る、と聖書が言っているではないか。」 7:43 そこで、群衆の間にイエスのことで分裂が起こった。 7:44 その中にはイエスを捕らえたいと思った者もいたが、イエスに手をかけた者はなかった。 7:45 それから役人たちは祭司長、パリサイ人たちのもとに帰って来た。彼らは役人たちに言った。「なぜあの人を連れて来なかったのか。」 7:46 役人たちは答えた。「あの人が話すように話した人は、いまだかつてありません。」 7:47 すると、パリサイ人が答えた。「おまえたちも惑わされているのか。 7:48 議員とかパリサイ人のうちで、だれかイエスを信じた者があったか。 7:49 だが、律法を知らないこの群衆は、のろわれている。」 7:50 彼らのうちのひとりで、イエスのもとに来たことのあるニコデモが彼らに言った。 7:51 「私たちの律法では、まずその人から直接聞き、その人が何をしているのか知ったうえでなければ、判決を下さないのではないか。」 7:52 彼らは答えて言った。「あなたもガリラヤの出身なのか。調べてみなさい。ガリラヤから預言者は起こらない。」 7:53 〔そして人々はそれぞれ家に帰った。

導入

7章に、イエスは「仮庵の祭り」に上られたとあります。この個所をしっかり理解するためには、この祭りについて少し調べる必要があります。

この祭りは、9月下旬から10月上旬にかけて行われる8日間の祭りでした。

これは、エルサレムから約20km 圏内に住む男性はすべて参加しなければならない祭りのひとつでした。できるかぎりこの祭りに参加しようと遠路はるばる旅して来るユダヤ人も多くいました。

ユダヤ人はみなエルサレムに集まって、荒野で神が40年間必要を満たしてくださったことを覚えて祝います。父祖の荒野での生活を記念して、人々は小さなテントや小屋に寝泊まりしました。

祭りのテーマは「水と光」です。ユダヤ人は、荒野で神が岩から水を与えてくださった昔を振り返りました。

出エジプト17：1-7

17:1 イスラエル人の全会衆は、【主】の命により、シンの荒野から旅立ち、旅を重ねて、レフィディムで宿営した。そこには民の飲む水がなかった。 17:2 それで、民はモーセと争い、「私たちに飲む水を下さい」と言った。モーセは彼らに、「あなたがたはなぜ私と争うのですか。なぜ【主】を試みるのですか」と言った。 17:3 民はその所で水に渇いた。それで民はモーセにつぶやいて言った。「いったい、なぜ私たちをエジプトから連れ上ったのですか。私や、子どもたちや、家畜を、渇きで死なせるためですか。」 17:4 そこでモーセは【主】に叫んで言った。「私はこの民をどうすればよいのでしょう。もう少しで私を石で打ち殺そうとしています。」 17:5 【主】はモーセに仰せられた。「民の前を通り、イスラエルの長老たちを幾人か連れ、あなたがナイルを打ったあの杖を手に取って出て行け。 17:6 さあ、わたしはあそこのホレブの岩の上で、あなたの前に立とう。あなたがその岩を打つと、岩から水が出る。民はそれを飲もう。」そこでモーセはイスラエルの長老たちの目の前で、そのとおりにした。 17:7 それで、彼はその所をマサ、またはメリバと名づけた。それは、イスラエル人が争ったからであり、また彼らが、「【主】は私たちの中におられるのか、おられないのか」と言って、【主】を試みたからである。

これは収穫の祭りでもあったので、水は恵みの雨への祈りを象徴するものでした。夏も終わりに近づき、雨季が始まろうとしています。水を注ぐ行為は、神が雨を送ってくださることを目に見える形で表現したものです。

また、救い主なる王のもとでイスラエルの上に、そしてすべての信徒の上に聖霊が注がれることへの期待も表していました。

もうひとつのテーマは「光」です。神殿のあちこちに、大きなろうそくが灯されます。これは、荒野で神が夜には火の柱、昼には雲を送って民を導かれたことを覚えるものです（出エジプト13：21）。

「仮庵の祭り」は収穫を祝う祭りでもあります。

（出エジプト23：16、レビ記23：33-36、申命記16：13-15）

昔のユダヤ教のラビたちは、「仮庵の祭りのころにエルサレムに来たことがなければ、本物の祝祭を経験したとは言えない」と言いました。

この祭りは、ユダヤ教の暦でもっとも喜びに満ちた祭りです。日本のゴールデンウィークに似ているかもしれません。誰もがうれしそうな時期です。

現代でもエルサレムに行きたければ、その時期が一番おすすめです。

「仮庵の祭り」はにぎやかな祭りでした。神の過去の恵みを覚えて感謝するときであると同時に、未来に神がなしてくださることを期待するときでもありました。

これらの「仮庵の祭り」についての知識は、ヨハネ7章の学びを理解するのに役立つでしょう。

イエスは、ユダヤ人たちがイエスを殺そうとしていたので、ユダヤへ行くのを避けておられました。

イエスの兄弟たちは、ユダヤに戻って公の場に姿を現すよう忠告しましたが、兄弟たちもイエスが神の子であることを信じていませんでした。

イエスは兄弟たちに二度、「わたしの時はまだ来ていない」とおっしゃいました。

このことばは、イエスがあらかじめ用意されたご計画に従っておられたことを明らかにします。イエスが従っておられたのは、父のみこころです。イエスはすべてのできごとを支配しておられました。出来事がイエスを支配していたのではありません。

これは私たちにとって大きな励ましとなります。というのも、この世は制御不能でイエスはすべてを支配しておられないように感じるときがあるからです。けれども、現代社会でどんなことがおころうとも、イエスはあらかじめ定めたご計画をお持ちであることを私たちは信じなければなりません。

イエスの兄弟たちでさえ、イエスのご計画を妨げようとしました。彼らは、今すぐにイエスが世間に姿を現すことを求めました。悪魔はいつも勇み足ですが、神にはじゅうぶん時間があります。神はご自身のタイミングに沿って働かれます。

イエスは、兄弟たちを「仮庵の祭り」に送りだし、自分はまだ行かないとおっしゃいました。

祭りの終わりの日に「生ける水」の話をなさるためには、祭りにいなければなりませんが、まだこのときは行くべきときではなかったのです。

イエスは兄弟たちに、世間がイエスを憎んでいることを改めておっしゃいました。それは、イエスが世の中の悪について指摘なさるからです。イエスはここで、神にえこひいきはないことを明らかにされます。神の選びの民であるユダヤ民族にも、神を拒む傾向がありました。彼らも他の人たちと同様に悪い心を持って生まれ、イエスの教えに従う必要があったのです。

誠実で思いやりのある親切な人にとって、心に悪があることやイエスによる赦しときよめが必要であることを認めるのは容易ではありません。しかし、神が選ばれたご自身の民が赦されなければならないのなら、誰もが赦しを必要としているはずです。

7章で、ヨハネは大切なことを3つ指摘します。

まず、ユダヤ人の心を暴くイエス、次にイエスの真の使命が明かされる、最後にイエスに対する人々の反応です。

1. ユダヤ人の心を暴くイエス

   イエスは、ユダヤ人指導者たちが神の子というイエスのご性質を認めようとしない理由を3段階に分けて説明されます。

   a) 第一段階　－　17節には、人々が神のみこころを行おうとしなかったと語ります。ユダヤ人たちは神のことばを知っていながら神のみこころを行いませんでした。神を慕い求める心がなかったのです。こういう理由で、イエスの教えが神からのものであるという確信が得られませんでした。神は私たちの心の内をご存知です。私たちが神を求めているなら、イエスのことばの真理を知ることができるでしょう。

      4月15日のバイブルスタディで、新約聖書の使徒の働きの中で、神を畏れる人々が信徒にされた事例がいくつもあることを学びました。中でもよく知られたお話は、紫布の商人ルデヤの話でしょう。使徒16：14には、ルデヤは神を敬う人だったので、主が彼女の心を開いてくださったとあります。

      神に心を開くなら、私たちも神についての真理を知ることができます。一方、神に対して心を閉ざすなら、神についての真理を知ることはできません。

      トーマス・マントンは言いました。「神を見ることができるのは心のみである。心の内を見ることができるのは神のみである。」

      聖書は、「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。」（エレミヤ17：9）と語ります。

      それを知ることができるのは神のみです。私たちが心底から真理を求めれば、神は私たちに真理を知らせてくださるでしょう。

      ユダヤ人指導者たちは、神のことをわかっていると言いましたが、それは間違いで偽善でした。彼らの行いがそれを明らかにしています。彼らはイエスを殺そうと企てていました。また、安息日の本来の意味を見失い、形骸化させていました。こういったことから、彼らのよこしまな心がわかります。

   b) 第二段階　－　イエスご自身について。イエスはいくつかのかたちでご自身について語られます。

      まず、奇跡を行う人です。21節でイエスは、わたしがひとつの奇跡を行うとあなたがたは驚いた、とおっしゃいました。

      イエスはまた、人の作った安息日の規則を破っても、安息日は守っているとおっしゃいました。安息日は神が人のために作られたものです。神のために人が作ったものではありません。

      イエスは、ご自身が神から遣わされたので、神を知っているともおっしゃいました（29節）。

      安息日について、イエス以上に知っている人はいません。イエスが作られたからです。カヌーに乗っている人に向かって指示をするパドルがあるでしょうか。神は私たちをお造りになり、私たちの所有者です。神が私たちにすべきことを語られ、私たちは神の権威の前にへりくだって従うだけです。

   c) 第三段階　－　群衆の反応。12-31節にある群衆の反応から、その心が見えてきます。19節で、彼らはイエスを殺そうとしました。

30節で、イエスを捕えようとしました。25-27節では、人々は混乱しているようです。群衆の間に噂が流れ（12-13節）、イエスがどういうお方なのかわからないといった空気でした。31節には、「キリストが来られても、この方がしているよりも多くのしるしを行われるだろうか。」とあります。

2000年経った今でも、人々はイエスについて、またその働きの真実についてほとんど無知です。現代でも、多くの知識人たちはイエスについての嘘を信じることを選びます。なぜでしょう。それは、彼らの心が悪いからだとイエスはおっしゃいます。

2. ご自身の使命を明かされるイエス　–　37-39節

仮庵の祭りの終わりの日に、イエスはご自身の「使命」を明らかにされます。

祭りの期間中、祭司は毎日、金の水がめを持ってシロアムの池に水を汲みに行きます。そして、イザヤ12：3「あなたがたは喜びながら救いの泉から水を汲む。」というみことばを群衆が唱える中、水の門をとおって水の入った器を持ちかえります。

水は神殿の祭壇まで運んでいき、神へのささげ物として注がれました。これらのことが行われている間、人々は詩篇113-118篇をともに歌います。

レビ人の歌い手たちが歌をリードし、笛を吹く者たちもいました。

最終日には、神へのささげ物として水を注ぐ前に、祭壇の周りを7周回ります。最終日はとてもにぎやかなクライマックスの日です。40年間民が荒野をさまよった間、神が必要を備えてくださったことを覚えて、神を賛美します。

祭壇に水を注ぐ儀式が終わった直後に、イエスが立ちあがって叫んだのではないでしょうか。「だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおりに、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」この祭りは、イエスが教えようとしておられた霊的真理を目に見える形で示してくれるツールとなりました。

では、イエスは何とおっしゃったのでしょう。イエスの使命とは何でしょう。

a) だれでも -この招きはすべての人に向けられているとイエスはおっしゃいます。この招きから除外される人は誰もいません。世間では、学歴や経済状況、人種、宗教、家庭環境、障害などあらゆる理由で人を排除しようとします。しかし、イエスは、ご自身の招きから誰をも排除なさいません。

b) だれでも渇いているなら - イエスは、渇いている人なら誰にでも応えるとおっしゃいます。

これは、罪の赦しを欲して渇いているなら、神との平安を求めて渇いているなら、という意味です。のどの渇いた人に水を飲むことを強要する必要はありません。のどの渇きを癒そうと必死だからです。イエスは、霊の渇いた人を探しておられます。皆さんは、罪の赦しを今日知りたい、私たちを造られた神を知りたい、人生の意味を知りたい、という渇望がありますか。もしそうなら、イエスのもとに来なさいと招いてくださいます。

c) だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。 -行くべきところは、牧師や教会指導者、その他どんな人のところでもありません。イエスのもとへ直接行くのです。ヨハネの福音書から、イエスはどこにでもいてくださり、すべての人の心をご存じだということを学びました。ですから、私たちに神が見えなくても、神は私たちの居場所をご存知です。「今ここにイエスがおられるとどうやってわかるのか」と思うでしょうか。

イエスがここにいてくださることがわかる方法をお教えしましょう。イエスのもとに来て、心から罪の赦しを求めてみてください。2000年前にあなたのためにイエスが十字架上で死んでくださったことを信じてみてください。イエスが本当におられなかったら、私は今こ

こにいないでしょう。ここにいるほとんどの人もきっとそうでしょう。私たちはイエスご自身のもとに行く必要があります。自分でイエスにお願いするのです。イエスは本当におられます。今ここにいらっしゃいます。

d) 聖書の言うとおりにイエスを信じなければならないとイエスはおっしゃいます。 - 自分なりの解釈のイエスを信じても何の役にも立ちません。私たちは、聖書のイエスを信じる必要があります。

祭りにいた人々には、旧約聖書しかありませんでした。旧約聖書のどこにイエスのことが書いてあるでしょう。実は、あらかじめ示された型というかたちで至るところに書かれています。預言者イザヤは、ずっとイエスについて語っていました。

イザヤはイエスについて53章で、私たちの病を負い、私たちの痛みを担う方と言います。私たちの罪のためにこのお方は苦しみ、罰せられたと言います。また、このお方が罰せられたおかげで、私たちは神との平和を得ることができると語ります。

バプテスマのヨハネは、イエスが私たちの罪を取り除く「神の小羊」だと言いました。ユダヤ人には、罪をあがなうために傷のない子羊をいけにえとしてささげる習慣がありました。旧約聖書がイエスについて何と語っているかをすべて取り上げる時間はありませんが、聖書の教えるイエスを信じることが大切です。イエスについて信じていることは何でも、聖書に基づいている必要があります。そうでなければ、それは私たちを招いてくださるイエスとは違う別物です。ですから、聖書の教えるイエスを信じましょう。

多くの人が信じたくないイエスの姿は、ルカの福音書14：25-30に記されています。

14:25 大勢の群衆が一緒について来たが、イエスは振り向いて言われた。 14:26 「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。 14:27 自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。 14:28 あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか。 14:29 そうしないと、土台を築いただけで完成できず、見ていた人々は皆あざけって、14:30 『あの人は建て始めたが、完成することはできなかった』と言うだろう。

自分なりに解釈したイエスを信じて自分を欺くことのないように気をつけましょう。聖書の教えるイエスを信じましょう。聖書の教えるイエスこそ、私たちの心を満たしてくださるお方です。

e) イエスを信じる者には生ける水の川が流れるとイエスが約束される。

39節で、イエスはそれが聖霊のことであるとおっしゃいます。

イエスは、イエスを信じるすべての人に聖霊をくださろうとしておられました。

けれども、まずイエスが私たちの罪のために十字架上で死に、葬られて、三日後に死からよみがえらなければなりませんでした。そして多くの人々に姿を現し、天に帰る姿も目撃されます。そのすべてが起こった後に、十字架上で成された御業を信じる人々にイエスが聖霊を注いでくださいます。

コリント第二5：21は、神が罪を知らない方であるイエスを私たちの代わりに罪とされたと語ります。それは、私たちがこの方にあって神の目に義とされるためです。

イエスには聖霊が無限にあります。イエスのもとに来るすべての人の霊の渇きをいやすのに十分です。つまり、あなたがイエスのもとに行くなら、あなたのためにも聖霊をたっぷり注いでくださるということです。

3. 人々の反応– 40-52節

みことばによると、人々の反応はさまざまだったようです。

40節によれば、群衆の多くがイエスを「預言者」だと信じました。

申命記18：15から、モーセのような「預言者」を神の民の中から起こすと神が約束されたことがわかりました。

神はその人の口にご自身のことばを託し、神の仰せになることをすべてその人が語ります。

群衆の中にはそういったことを認識できる人たちがいました。

41節には、この人が「キリスト」だと思った者もいたとあります。

現代人には、「預言者」と「キリスト」を分けて考える当時の人々の考えが理解しにくいでしょう。私たちは、イエスが「預言者」についての預言と「キリスト」についての預言の両方を成就したお方だとわかっています。しかし当時は、人々はそのふたつをつなげて考えていませんでした。それで、これらは相対するふたつの見解でした。

41-42節では、イエスがどこから来たかについて議論が起こっています。

メシヤはダビデの子孫でベツレヘムから出ると人々は認識していました。それは正しいのですが、イエスの出生地がガリラヤだと思い込んでいるところに間違いがあります。ルカの福音書でご存じのとおり、マリヤとヨセフは住民登録のためにベツレヘムへと旅しなければなりませんでした。イエスはそこでお生まれになりました。

イエスを捕えたいと思う人もいましたが、誰もイエスに手をかけませんでした。

どうも、正式な逮捕状はすで発行されていたようです（32節）。

イエスを捕えに行った神殿の役人たちは、祭司長とパリサイ人たちのもとに帰りました。そして、イエスを捕えなかったことを責められます。これに対し、役人たちは、イエスのように語った人は誰もいないと弁明しました。神殿の役人はレビ人です。モーセの律法に精通した人々です。その彼らが、心に語りかける何かをイエスのことばに感じたのです。神殿の役人たちは、神学を妥協したのかと責められました。

ユダヤ人指導者のひとりであったニコデモは、イエスを支持し、しっかり言い分を聞くまでは判決は下せないと宣言しました。

まとめ

7章で、イエスは仮庵の祭りという機会を活かして、ご自身がユダヤ人の救い主として来られたことを宣言なさいました。

イエスはすべての人がご自身のもとに来るように招き、イエスのもとに来て、聖書が教えるとおりにイエスを信じる人には「生ける水の川」を約束されました。

群衆の反応はさまざまでした。イエスが捕えられなかったのは、イエスがすべてを支配しておられ、まだ捕えられる時が来ていなかったからです。

これらのみことばは、当時の人々にとって、また今ここにいる OIC の私たちにとって、どのような意味があるでしょう。

当時の人々にとって、彼らの心はあらわになりました。神を知り、神の律法を守っていると言いながら、自分たちが信じているというみことばの成就であるイエスに気づくことができませんでした。

その主張とは裏腹に、宗教指導者たちは神を知ってはいませんでした。

7節で、イエスはこうした人々を「悪い」と呼んでおられます。これは私の言葉ではなく、イエスの言葉です。

神の民は、少々やっかいな救い主を喜んで受け入れることができませんでした。彼らが思い描いていたイメージとイエスが合わなかったからです。彼らは宗教を自らの手で操っていたので、誰にも邪魔されたくありませんでした。

今日における私たちにも似たようなことがあてはまります。

現代人の多くは、宗教や規範など何らかの信心に則って生きています。

それが文化や伝統に基づいている場合もあるでしょう。いずれにせよ、それは人の作ったものです。人は自分たちの作った規則や規定は受け入れやすいものです。私たちは習慣の生き物であり、変化を好まないからです。変化は混乱の可能性があり、努力を要するからです。

イエスが日常生活に関わって語られることを、私たちは必ずしも喜びません。それは私たちの信じていることや動機があらわにされるからです。イエスを必要としていることを認めようとせず、イエスを信じなさいという主の招きに応答しません。

悪い心を持っていて、赦しときよめが必要な自分を認めたくないのです。

イエスは、永遠につづく霊の命を今与えようと言ってくださいます。けれども人は、ニーズを満たしてくれない一時のくだらないものを選びがちです。

私たちはどうすればよいのでしょう。イエスのもとに来て罪を認めればよいのです。そしてイエスが私たちを救うために天から遣わされた神の子だと信じればよいのです。

イエスを人生の主として受け入れ、本物の弟子としての生き方を始めることができます。これこそ、本当のキリスト教です。

自分の考えに頼って生きることをやめ、私たちをとおして聖霊によってイエスがしたいと望まれることに応答していくのです。

イエスのもとに来て、人生をまるごとお委ねしようと思いますか。

主は、尽きることのない生ける水の川のような力を約束してくださいます。

「だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおりに、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」

（ヨハネ7：3-38）